

所属	リハビリテーション学研究科 リハビリテーション学専攻 修士課程	修了年度	2018 年度
氏名	松本 拓也	指導教員 (主査)	小林 幸治

論文題目	地域生活を送る精神障害当事者の人生の転換期となった出来事への支援者の理解 - ナラティブに現れる隠喩の質的解釈の試み -
------	---

本文概要

【目的】本研究の目的は、精神障害当事者（以下、当事者）のナラティブに表れた隠喩の意味の解釈を通して、彼らの人生の転機となった出来事（以下、出来事）の意味を明らかにし、当事者のリカバリー過程や、自身の体験をどのように意味付けているかを理解するための支援方法の検討をすることとした。

【方法】地域生活を送る当事者に対し、出来事とその隠喩についてインタビューを行った。インタビューデータの分析には質的記述的分析を用いた。インタビューデータより逐語録を作成した。次に逐語録から1つの出来事あるいは時期を語っている文脈を1つの単位として「テキスト」を抽出し、時系列に並べた。この「テキスト」から「出来事」、「隠喩」、「解釈された意味」、「理論メモ」を記入するための分析シートを作成した。「出来事」と「隠喩」の両側面から隠喩が表す「解釈された意味」を抽出し、内容的に類似したものから小カテゴリ、さらに大カテゴリを命名し作成した。全体のカテゴリ間の関係性を表す概念図とストーリーラインを作成した。

【結果】8名が分析対象者となった。インタビューより、隠喩とそれに対する「解釈された意味」が37個得られ、4個の大カテゴリと17個の小カテゴリに集約された。以下に、各大カテゴリを[]、それに含まれる小カテゴリを{ }で示す。[自身の置かれていた状況]には{誰も信じられない状況}{生活や自身の状態の悪化}{生活や自身の状態の好転}{逆らえなかった入院}{生活の滞り}{生活の充実}{生活への希望と支援者理解の摩擦}が含まれた。[精神的状態]には{全てを消してしまいたいほど追い詰められている感覚}{人生の大きな障害を突き付けられた感覚}{社会から隔絶された感覚}{心が閉ざされてしまった状態}{他者に心を許せる状態}{人生を取り戻したい気持ち}{入退院の繰り返しによる行き場のない気持ち}が含まれた。[身体的状態]には{精神と身体の解離した感覚}が含まれた。[状況や体験への認識]には{生活に悪影響を与えた体験の客観視}{社会に対する認識拡大}が含まれる構成となった。

【考察】当事者が語る隠喩は、[自身の置かれていた状況]といった自身より外側の状態を表す「外の隠喩」と[精神的状態]、[身体的状態]、[状況や体験への認識]といった自身より内側の状態を表す「内の隠喩」がある。また、当事者の出来事に対する意味付けを理解するには、[自身の置かれていた状況]、[精神的状態]、[状況や体験への認識]、[身体的状態]の各大カテゴリの関係性について考え、捉えることで主観的体験を立体的に捉えることができる。小カテゴリには、Ridgway が示したリカバリーの過程の要素と類似している点がある。そのため、当事者の主観的体験を理解する際に、小カテゴリの項目に着目しながら体験を捉えると当事者のリカバリーの過程を理解することに役立てられる。

【結語】支援者が当事者の過去から現在に至るまでの体験と意味付けについて理解することは、当事者の生活の希望についての、本質的な意味の理解に繋がる。当事者は希望した生活を実現するために、挑戦し、たとえ希望通りの結果が得られなかった場合であっても、支援者は他の手段を用い、当事者が希望する生活を送るための支援ができる可能性がある。